

# ● 井上有一の書

2018年

6月15日.金—6月24日.日

会場はうつわ菜の花に変更になりました。

定休日 20日 OPEN 11:00—18:00

今年の日仏友好160周年に当たり、パリを中心に「日本博」が6月から来年の2月にかけて開催される。井上有一展は7月14日～9月15日、パリ日本文化会館で開催され、70点ほど展示されます。その後はロートレック美術館(9月29日～12月17日)に巡回する予定。

元は中国書法から派生した従来の「書」の概念を塗り替え、日本固有のものに昇華したと言って良い「井上有一の書」がこの「ジャポニズム2018」で紹介される。キュレーションは秋元雄史さん(東京芸大美術館館長)です。

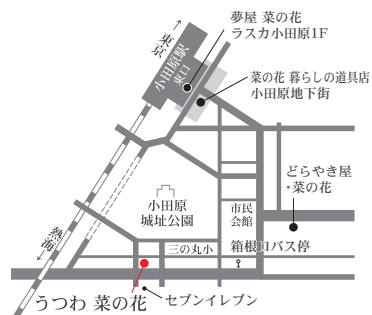
●うつわ菜の花では、井上有一さんの小さな作品を集めて見てもらいたいと思っていたところ、「あじさい」が4点、「よたか」「くじガもげた」「すずむし」他に9点届いた。「あじさい」は、昔、箱根登山鉄道に乗って見たあじさいを、思い起こさせた。

「よたかの山」は、賢治は数行でも読むとすごい人だなーと心に落ちてくる。有一の選んだ文章と、きれいでない字が、何ともいえなく良い。そして「くじガもげました」と書く有一。書を書いていて、筆の首がとれたことを言っているとわかる前にドキッとさせられる。それをテーマに大きな紙に大きな字で書いているんだと思うと、そこに自分もいる気がしてくる。何という人だ。

「すずむし」も是非見に来ていただきたい。

今回は一作ずついいましたが、自分が持ったら持ったでまたおもしろいと思います。

2018年6月4日 ● 菜の花 高橋台一



## うつわ菜の花

47.5×65.9 (H×W/cm)

小田原市南町1-3-12 電話 0465-24-7020

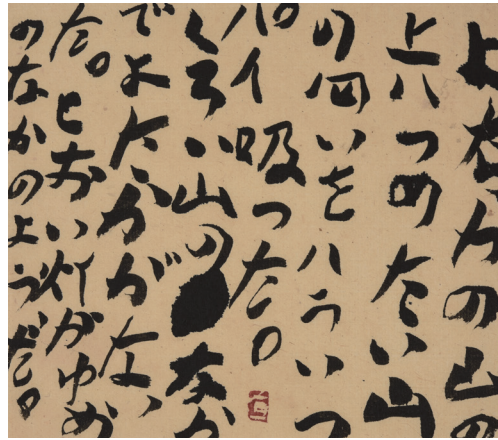
小田原駅東口より箱根方面へ向かうバス利用

[箱根口]バス停下車徒歩2分 セブンイレブン向かい側

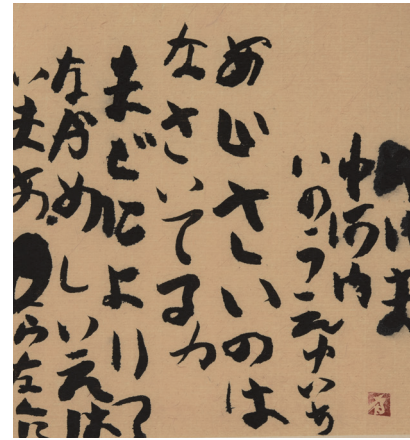




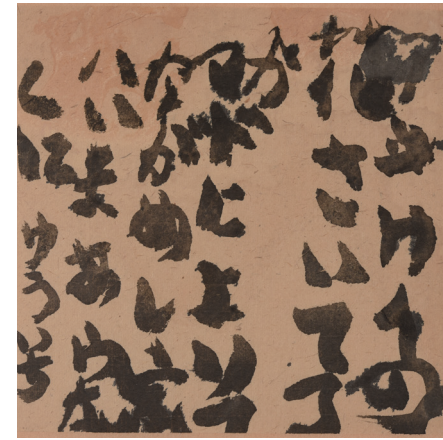
55.5×74



16.2×18.4



18.7×17.4



19.2×20



62×142

井上有一 プロフィール

- 1916 東京下谷ニ長町生まれ。
- 1935 青山師範学校を経て東京市本所区横川尋常小学校訓導勤務。
- 1941 上田桑鳩に師事(51年迄)
- 1950 第三回書道芸術院展初出品「自我偈」で書家デビュー。
- 1951 神奈川県の辻堂に住む長谷川三郎を識り、芸術の本質を糾すため日参する(当時井上有一は隣町の茅ヶ崎に住んでいた)。
- 1952 森田子龍、書芸術雑誌『墨美』創刊。
- 1957 墨人会を結成、機関誌『墨人』編集を担当(50号迄)サンパウロ・ビエンナーレ展 日本代表として手島右卿と共に出品、「愚徹」がハーバート・リードに注目される。
- 1959 カスパー・ケーニツヒの推薦によりドクメンタ(カッセル)出品。ハーバート・リード『近代絵画史』に「愚徹」を掲載
- 1971 美術批評家海上雅臣と出会い最初の作品集『花の書帖』刊。初の個展開催(老番館画廊/銀座)、以後没年に至るまで個展を15回開催。
- 1976 8月31日を以て神奈川県寒川町立旭小学校校長を最後に、41年間の教員生活を終える。
- 1985 肝不全で没、69歳。